

2017年11月24日(金) 晴/曇り

比良山地「堂満岳」

個人山行： 駒田、廣田 計2名

コース距離 : 10.2km

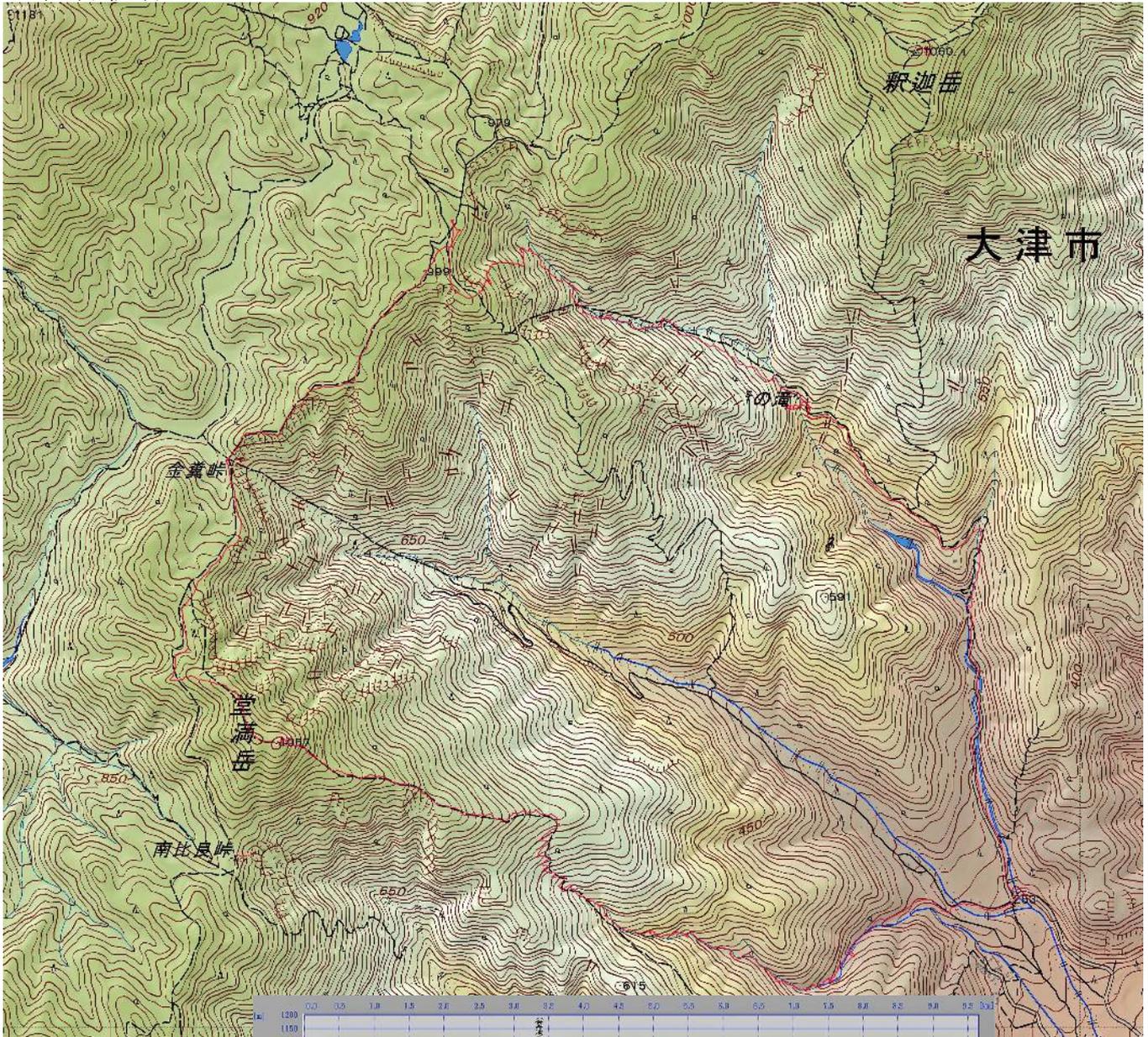
所要時間 : 5時間30分(休憩含む)

コースタイム : イン谷出合(9:01)→(9:05)旧登山道→(9:59)東稜道出合→

(11:06)堂満岳(11:14)→(11:47)金糞峠→(12:13)北比良峠【食事休憩】

北比良峠(12:51)→(13:14)神爾谷→(13:54)神爾滝→(14:31)イン谷出合

### \*山行軌跡



### \*行程グラフ



山行記：今日はK氏のリクエストで堂満岳へ、昭文社の地図に記載されていない旧道を登って行く事に。

比良管理棟の前を通り橋を渡ってすぐに土手を登り越えると旧道に出る事が出来る、倒木の多い道に行く横に川の流れて10m程上を滑り落ちない様に歩いて行くと川との標高が無くなり川べりを歩いて行く。

不明瞭な道であるが時々誰かが通られている跡が伺える、今年の影響か倒木も多く迂回しながら登って行き、歩きはじめて1時間東稜道出合にでてメインの登山道を登って行く。

堂満は三つの瘤を越えて登る山と言いつた聞かせている、一人すぐ後ろに来られているノタノホリから来られてのだろう、先に行ってもらい登って行き登山道にも残雪が現れてくる、最後の瘤の急登は強烈さを思わせる息を切らして山頂へ到着。

山頂を後に金糞峠に、登って来た堂満岳が観られ急斜面を登って来たことが判る。

北比良を目指して尾根を登って行く、途中堂満岳や武奈ヶ岳を望みながら歩くことが出来る、登山道には台風の影響かシャクナゲの枝が多く落ちていた。

北比良峠に到着する一人しか出会わなかった登山者も北比良峠で数人の単独登山者を目掛ける、強風が吹いている為土手に向かいそこで食事休憩を摂る。

峠からダケ道分岐より神爾谷に降りて谷を下って行く、この谷も今日は水量が多く流れている、この谷には20年以上来ていないため様子が変わっていて防砂ダムが増えていて広い広場だった所も雑木林に変わっていた。

下山道の途中に在る滝を観に行く、久しぶりに見る神爾滝も水量が多くて迫力が増していた。

イン谷を目指して下って行くが倒木や小枝が多く落ちて歩きにくい、釈迦岳への登り口を過ぎても変わらない、昔は表道であったが今は寂びれた登山道を下って行きイン谷出合に戻る。



残雪が現れる

堂満岳



琵琶湖  
沖ノ島を望む





堂満岳山頂



金 糞 峠



金糞峠より琵琶湖



堂満岳を望む



手前「コヤマノ岳」右奥「武奈ヶ岳」



釈迦岳



神爾谷への急斜面を望む



神爾の滝

